



井上こうし

完全無所属

49歳

調布市議会議員

第46代調布市議会議員

「新しい調布」を、明日から起動させる。

23年の現場経験が導き出した「次世代への責任」



【1期目の頃の初心】

26歳の情熱、原点は「徹底した現場主義」

26歳で初めて市議会に送り出していただいた日。「政治は市役所の中ではなく、市民の生活の現場にある」という思いが私の原点です。

肩書きや組織に頼るのではなく、自分の足で歩き、一人ひとりの声に耳を傾ける。その泥臭い現場主義は、23年経った今も、私の政治の根幹として揺らいでいません。

【6期 23年間で見た市政の壁】



前市政を「継承」しつつも、時代に合わせて「アップデート」する

市議として調布の発展に全力で伴走してまいりました。現市政が築き上げた確かな実績と安定感には深く敬意を表します。しかし、同時に議会の立場から「役所の縦割り」や「前例踏襲によるスピードの遅れ」という壁も痛感してきました。これからの時代に必要なのは、良い部分をしっかりと「継承」した上で、民間活力やデータ（DX）を駆使し、今の時代にふさわしいスピード感で市政を「アップデート」するトップの決断力です。

【消防団15年の経験】



肩書きではない。

現場で汗と泥にまみれた「実践の危機管理」

私は15年間、消防団員として活動してきました。真夜中のサイレンで飛び起き、火災や災害の最前線で泥水と汗にまみれながら、地域の方々と共に命と街を守ってきました。私の安全対策は、会議室で作ったものではありません。現場を知る実践者だからこそできる、本気の防災・防犯体制を築きます。

【49歳の決断、新たな次元でリーダーシップを発揮する】

「都政・国政へのステップ」ではなく「調布への恩返し」

私は他のステージへ行くことは考えず、23年間ただひたすら「調布市政」に骨を埋めてきました。49歳。子育て世代、働き盛り世代のど真ん中であり、今後の調布の20年、30年を見据えた「当事者」として責任を負う世代です。愛する調布の現場を知り尽くした私だからこそ、動かせる未来がある。これからの調布市政の先頭に立つ覚悟です。

「いつか」の理想論より、「明日」の生活。

私には、明日から市役所を動かすことのできる「設計図」があります。

1 防災・安全対策と環境保全

井上こうしの提言（議会での取組）

災害時の初動態勢、ボランティアの運用ルールの確立など「実践的な危機管理体制」の構築。

高齢者の地域内の移動の確保と、自転車の交通安全対策。

天然ガス車の導入や、調布の緑を次世代へ引き継ぐ環境基本計画の推進。

設計図のポイント

【ソフト面での計画づくり】は進みましたが、現場の物理的な安全確保（建物の耐震化、道路の補修など）の停滞が、現在の調布市における最大の弱点であり、市民の強い不安要素として残っています。この遅れを、これまでの「待ちの行政」ではなく「プッシュ型の伴走支援」や「即時対応」で打破することが急務です。



調布市の進捗状況（現在の状況）

- 【進捗順調（ソフト面）】避難行動要支援者プランの策定や防災訓練、ゼロカーボンシティに向けた計画策定など、マニュアルや啓発等のソフト面は着実に進行しています。
- 【大幅な遅れ（ハード・インフラ面）】令和6年度決算評価において、「緊急輸送道路沿道建築物の耐震化」の工事実績がゼロ件となるなど、命に関わるハード面の対策が遅延しています。市民意識調査でも「自転車の危険」への不満がトップクラスのまま固定化しています。

2 すべての子どもと家庭を支える教育・福祉・子育て環境

井上こうしの提言（議会での取組）

子どもの医療費助成における「所得制限の撤廃」と対象年齢（高校生まで）の拡充。

子ども・若者の孤立を防ぐための総合的な支援体制の構築と、子どもの貧困への介入。

保育園の待機児童問題への広域的対応と、小1プロブレム対策。

設計図のポイント

提言の多くが制度として実現し、市民から高い評価を得る実績につながりました。しかし、市民意識調査が示す通り、子育て・教育に対する市民の期待値（ハードル）は年々上昇し続けています。現状に満足することなく、時代に合わせたアップデートを継続していく必要があります。



調布市の進捗状況（現在の状況）

- 【実現】高校生までの医療費助成における「所得制限の撤廃」は調布市において実現し、市の強み（手厚い子育て支援）として定着しました。
- 【目標達成】若者総合支援事業「ここあ」の拡充等の成果により、「困難を抱える子ども・若者への支援」に対する市民満足度は61.1%に達し、令和8年度の目標値をすでに大きく上回っています。
- 【移行】待機児童対策は施設整備が進んでいます。今後は学童クラブを含めた「質の向上」へフェーズが移行しています。

3 都市基盤の着実な整備と公共施設マネジメント

井上こうしの提言（議会での取組）

京王線地下化に伴う、調布駅前広場・鉄道路線跡地および駐輪場の計画的整備。

老朽化したグリーンホール等の更新において、財政負担を軽減するためサウンディング型市場調査（民間との対話）やPFI手法等の導入。

学校プールの維持管理コスト・稼働率を検証し、公共施設全体の統廃合や合理化を進める長期的視点に立ったマネジメントの実行。

設計図のポイント

提言してきた中心市街地の「駅前整備」は形となりましたが、市民意識調査では「生活道路のガタガタや歩道の狭さ」に対する不満が依然としてトップを占めています。「公共施設の確実な更新」とともに、今後はこの構想を停滞させず、民間活力を最大限活用して「身近なインフラ整備を確実に着工・完了させる実行力」が問われるフェーズに入っています。



調布市の進捗状況（現在の状況）

- 【ほぼ達成】京王線地下化は完了し、調布駅前広場や鉄道敷地跡地の整備も完了し、あとはグリーンホール外階段を残すのみとなりました。
- 【現在進行の最重要課題】グリーンホールの建て替え等は現在、市の最大の懸案事項です。実際に「サウンディング型市場調査」が実施され、民間活力（PPP/PFI）の導入検討が進められています。
- 【計画化】「調布市公共施設マネジメント計画」に基づき、施設の複合化や長寿命化対策がスタートしています。

4 多様な人材の活用・地域経済と次代への責任

設計図のポイント

現在の調布市はまさに「長期政権のレガシーを継承し、次の世代へバトンタッチする歴史的な転換点」にあります。23年間、市政の現場を一貫して見続けてきたことで、市の強みだけでなく、未完了・遅延している課題（弱み）も正確に把握しています。これらを、次は自らが先頭に立って決断し、スピード感を持ってやり抜くという強い決意をもって、新たな市政に臨む覚悟です。



5 スマートシティ構想の推進と行財政改革

設計図のポイント

スマートシティや自治体DXに関する提言は、ほぼ完全に市の主要政策として実装されました。今後はこの構築されたデジタル基盤をただのシステムで終わらせず、市民要望に即応する「道路のA1診断による即時補修」や「どこでも市役所の実現」など、市民の利便性と安全性向上へダイレクトに結びつけることが最大の課題です。



井上耕志 プロフィール

市議会会派：チャレンジ調布所属
昭和51年（1976年）7月6日生 49歳〇型
マリアの園幼稚園・晃華学園小学校・世田谷区立上祖師谷中学校・日本大学櫻丘高等学校・東京立大学経済学部
日本大学大学院経済学研究科修士課程修了
26歳で調布市議会議員選挙に初当選、以来6期23年市議会議員として活動
第46代調布市議会議員を歴任
柏野小学校学校開放運営委員会顧問、調布青年会議所シニアクラブ会員
調布市消防団第9分団 前分団長
家族：18歳・15歳の息子を育てるシングルファーザー

調布市議会議員 井上耕志

井上こうし
YouTube
公式チャンネル



都政と市政を結ぶ
民主フォーラム

レポート 2026年6月号